【情報公開文書】

作成日 2026 年 1 月 16 日
（最終更新日 2026 年 2月 12日）

受付番号：I2025-409
課題名：病理標本の客観的評価と管理のための総合的な研究

１．研究の対象
2019 年 1 月～2024 年 3 月に当院で口腔腫瘍（良性・悪性）もしくは乳癌と診断された方および、胃生検を受けた方

２．研究期間
研究実施許可日～2029　年　3 月　31 日

３．試料・情報の利用及び提供を開始する予定日
当院で試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。
利用開始予定日：　2026　年　月　日
提供開始予定日：　2026　年　4 月　1 日

４．研究目的
東京科学大学大学院医歯学総合研究科 形態情報解析学分野では、東京大学大学院医学系研究科衛生学分野、ラオス保健科学大学医学部 病理学教室との共同研究として、病理標本作成の適切な取り扱いや病理診断法に関する評価・教育など日本・ラオス両国の病理学的診断の質を向上させることを目指した研究を行います。
病理診断とは、組織や細胞の検査を通じて病気を正確に特定する重要な医療プロセスです。病理診断は、病気の正確な診断と最適な治療法の決定に不可欠です。しかし、特にラオスのような医療リソースが限られている国々では、検体の適切な取り扱いや高品質な標本作成に関する知識や設備が十分でないことがあります。これにより診断の精度が下がったり、結果が出るまでに時間がかかったりする問題が生じています。
本研究では、ラオスの医療従事者を対象とした包括的な教育・トレーニングプログラムの実施を中心として、現地の病理診断能力の向上を目指します。
この共同研究の成果により、患者はより迅速で正確な診断を受けることができ、それに基づいた適切な治療をより早期に開始することが可能となります。最終的には、治療成功率の向上と患者の生活の質（QOL）の大幅な改善が期待されます。

５．研究方法
患者さんの検体をラオスに持ち込み、実際の症例を用いた実践的な教育・トレーニングを行います。具体的には、組織の染色（H&E 染色、免疫染色、ギムザ染色）などを共同で行い、各過程における技術的な評価と、染色後の標本について AI を用いて評価します。検体の適切な採取・取り扱い・保存方法から標本作成技術まで、病理診断の基礎となる技術の習得を体系的に支援

し、限られた医療資源でも高品質な病理診断を実現できる人材育成に重点を置いています。このような知識と技術の体系的な共有を通じて、ラオス国内における持続可能な医療サービスの発展を長期的に支援していきます。

６．研究に用いる試料・情報の種類

この研究では、患者さんの手術や生検などで採取された病理組織検体（パラフィン包埋検体）が研究対象として用いられます。これらは、ラオスの医療従事者が病理検体を適切に処理するための教育・トレーニングプログラムに使用されますが、個人情報と関連付けた解析は行いません。また、この研究は通常の病理検体を対象として行われますので、患者さんご本人の診療内容には全く影響を与えませんし、不利益を受けることもありません。なお、患者さんへの謝金はございません。

７．外部への試料・情報の提供

（提供）

試料・情報は個人が特定できないよう氏名等を削除し、持ち込みにより東京大学大学院医学系研究科衛生学分野へ提供します。

対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

（海外への提供）

試料・情報は、個人が特定できないよう氏名等を削除し、持ち込みまたは郵送によりラオス保健科学大学医学部病理学教室に提供されます。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。ラオスにおける個人情報保護に関する制度については個人情報保護委員会の WEB ページをご覧ください。

（URL：https://www.ppc.go.jp/enforcement/infoprovision/laws/offshore_report_laos/）

また、提供先の研究機関においては、OECD プライバシーガイドラインを全て遵守してあなたのデータを取り扱うことを確認しています。

８．研究組織

東京科学大学大学院医歯学総合研究科　形態情報解析学分野　副島　友莉恵

（役割：病理組織標本の作成・提供、病理学的評価）

東京大学大学院医学系研究科　衛生学分野　石川　俊平

（役割：研究の統括）

ラオス保健科学大学医学部　病理学教室　Soulideth VILAYVONG

（役割：病理組織標本の作成・提供）

９．利益相反（企業等との利害関係）について

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。本研究は運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。あなたには帰属しません。

１０．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院における照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
東京科学大学大学院　医歯学総合研究科形態情報解析学分野　副島友莉恵
連絡先：03-5803-5370

研究代表者：
東京大学大学院　医学系研究科衛生学分野　石川俊平
東京科学大学大学院　医歯学総合研究科形態情報解析学分野　副島友莉恵
ラオス保健科学大学医学部　病理学教室　Soulideth Vilayvong

１１．苦情窓口

東京科学大学　研究推進部研究基盤推進課　生命倫理グループ
03-5803-4547（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）